

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床はりきゅう学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	前期	教室名	講義室
担 当 教 員	奥谷和哉	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
はりきゅう理論テキスト 9章から11章および関連する生理学						
《成績評価の方法と基準》						
成績評価:試験 基準:得点の60パーセント以上合格						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
学校協会テキスト はりきゅう理論 生理学						
《授業外における学習方法》						
テキストでの復習						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験必須科目であることを念頭に置く						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みの感覚の受容と伝導の概要を説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習	
		各コマにおける授業予定	痛み感覚の受容と伝導			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みの感覚の受容と伝導を説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習	
		各コマにおける授業予定	痛み感覚の受容と伝導			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	温度感覚・触圧感覚の受容と伝達を説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習	
		各コマにおける授業予定	温度感覚・触圧感覚の受容と伝達			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の伸長刺激および筋の振動の受容と伝導を説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習	
		各コマにおける授業予定	筋の伸長刺激および筋の振動の受容と伝導			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	鍼灸刺激と反射について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習	
		各コマにおける授業予定	鍼灸刺激と反射			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 鍼鎮痛の機序について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	鍼鎮痛		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 鍼灸刺激と生体反応について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	刺激と反応		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 学習した学説について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	サイバネティックスの学説、ホメオスターシス		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 学習した学説について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	汎適応症候群の学説(ストレス学説)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 学習した学説について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	過剰神経症候群の学説(レイリー現象)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 学習した反応について説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	圧発汗反射		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標 これまでの学習内容を説明できる	テキスト はりきゅう理論 生理学	テキストでの復習
	各コマにおける授業予定	まとめ		